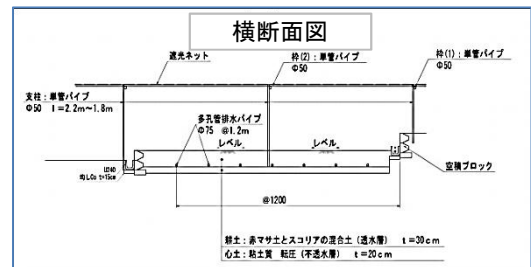
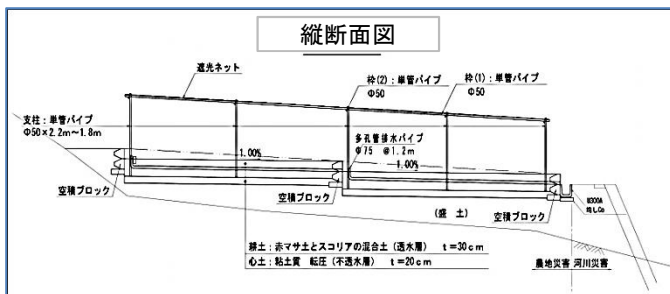
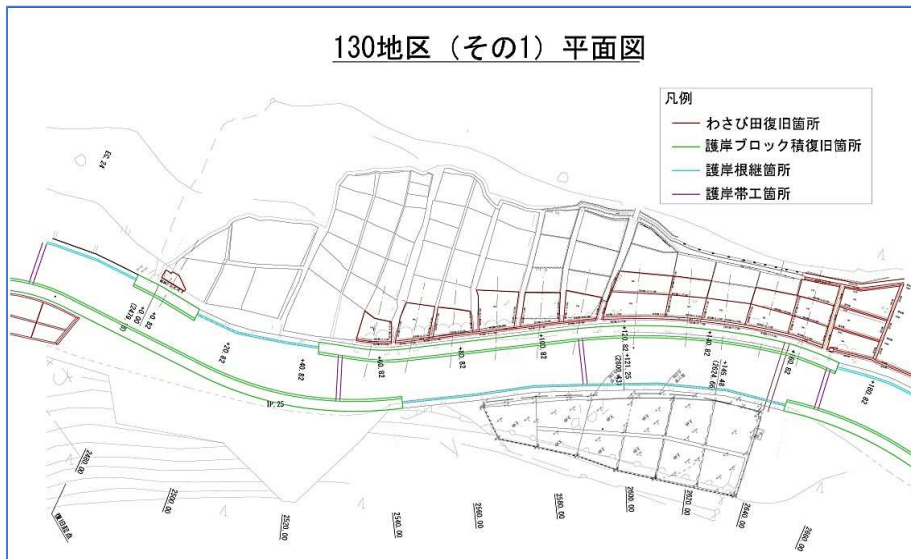


わさび田づくり

会社名 臼幸産業株式会社
氏名 秋山 由崇

工事名 平成23年度 農地・農業用施設災害復旧事業 須川1【128/344】地区ほか3地区工事
工事概要 わさび田復旧工1式
発注者 静岡県東部農林事務所
工事場所 駿東郡小山町菅沼地内
工期 平成24年3月3日～平成25年3月27日



平成22年9月8日に台風9号の影響により駿東郡小山町で1時間に118mmという猛烈な雨が降ったことにより、河川が増水し護岸が決壊、道路崩壊など様々な災害を被った。わさび田も約9割が壊滅という大きな被害を受けた。本工事は、そのわさび田を復旧した工事である。

本工事を施工するにあたり留意した点の一つとして、他工事との調整があげられる。工事を進めるためには河川護岸が復旧してからということが必要不可欠であり、護岸が復旧されないかぎり隣接するわさび田も復旧出来ない。そのため、工事連絡会議を設けた。お互いの工程の中で優先順位を決め、一度工程を組み直し、護岸工事のクリティカルパスに支障をきたすことのないように配慮した。

その他、河川に人が渡れるように橋がかかっていたということで、その復旧も間に絡めつ



つ作業を行った。元々河川占用の許可はおりにていたのだが、河川を広げるにあたり、橋の延長も伸ばさないとならなかったため、河川占有の変更も生じ許可に約1か月要したが、こちらも工程に支障をきたすことなく作業が出来た。

今回、最も留意した点はわさび田のつくり方についてである。一枚目にある平面図標準断面図からわさび田をつくろうにも理解できない部分が多く、既存のわさび田を調査し、どのような構造か、土の種類、給水の仕方、水勾配、排水の仕方含め検討を行った。また、実際どのようにわさび田をつくっていたのか地権者の方々から話を伺いながらイメージを高めていった。わさび田をつくるには水と土がいのちだということを知り、つくり土はマサ土とスコリアの混合土でつくるはよいが、配合率によりわさびの出来がかわってくるということなどでどのように配合するか、そして、水に関しても温まってしまってはいけない、新鮮な水をなるべく使いたいなど、地権者の意見を踏まえ、協力してもらい何度も何度も検討を行った。

わさび田に土を入れ込む前に試験的にいろいろな土を混ぜながら手触り、目視等で確認しながらつくり土の配合を決めてもらった。しかし、わさび田に土を入れ込んだ後に実際洗ってみてどうなるのか、試験はわさび田で行っていないため、理想と異なるのか不確定要素であり、地権者自身もやはり実際に洗ってみないと土の様子がわからないということもあり、仕上がったところへ試験施工ヤードを設け、つくり土の洗浄を行った。地権者自ら土質を確かめながら洗ってもらった。そして洗ってみていい感じだねという意見を頂けた。今回土の成分は泥分が比較的多かったため洗浄後は約5cm沈下した。地権者からの意見も参考にして、仕上がればもう大きな機械も入れなくなってしまうこともあるため、沈下を考慮しスコリアを沈下量分ストックするよう変更した。泥分を結局流してしまうのだから最初からそのような土をつかわなければよいのではないかと素人の我々は思うのだが、やはりおいしいわさびをつくるには必要不可欠だという。わさびづくりというものは奥深いものだとそこでまた感じた。



途中、別途護岸工事において、河川断面の確保に伴う護岸仕上がり高さの変更が生じた。そのため、わさび田の仕上がり高さが護岸天端よりも下がるため、護岸沿いに壁を構築し、また壁の高さを調整した。わさび田の形状としては棚田のようであり、段差も30cm程度が望ましいがここでは30cm段差がとれないなど含め、実際に現地に丁張をかけ地権者の方々に立会してもらい、このような形になる、こういう風にしたい方がよいなど前もって提案、そして把握してもらいその都度対応した。

給水、水勾配、排水含めて、湧水量、湧水位置などの関係で地権者一人一人構造が違ったり、地権者の思いがあった。そしてこちら側としても、収穫の時楽になるからここまで道があったほうがいいのか、道幅は小さい機械が入るくらいにしましょうか、ここに小屋を設けるスペースをもうけましょうかなど、ともに考え提案したりして、わさび田をひとつひとつつくっていった。そうやって地権者とともにこだわってつくっていった結果、最後仕上がってから本当にありがとうございましたと地権者の方々から言って頂き、大変うれしく思いました。自然と同化した元のわさび田への再現のむずかしさを感じ、最初の頃、果たしてわさび田というものがつくれるだろうかという思いがあったが、こうしてお互いが気持ちよく終われた。本当に良い経験が出来た。



完成写真